

令和7年度 第3回「GX実現に向けた訓練カリキュラム開発分科会」報告

1 日時 令和7年9月2日(水) 15:00～17:00

2 オンラインWEB会議

3 分科会委員

(座長) 味木 茂隆	(株)環境経営コンサルティング研究所
松永 和彦	神奈川県立産業技術短期大学校職業能力開発推進協議会
宮沢 浩之	(公財)神奈川産業振興センター
岩根 一樹	(有)ファクトリーゼロ
人材育成支援センター(事務局)	
津久井二郎	人材育成支援センター主査
酒井 博之	〃 職業訓練推進員

*分科会委員の出欠

全員出席

4 内容

ア 研修プログラムについて

前回会議の内容を踏まえて変更・追加等を反映した研修プログラム(資料2)について、項目ごとに、確認、意見交換を行った。確認内容、主な意見は以下のとおり。

【研修1日目 GX概論①】

1-1-1「世界の温暖化の推移」 1-1-2「横浜市の温暖化の推移」

- ・身近な横浜市の情報を追加した。横浜市の年平均気温は過去100年間で2℃上昇。日本全体の上昇率より高い。

1-2「カーボンニュートラル社会に向けたエネルギー収支計画」

- ・図は差し替えた。温室効果ガス(CO₂、その他メタン、フロン等)排出ゼロの考え方・取り組みについて、図とともに伝える。

1-3「カーボンニュートラル社会へのアプローチ」

- ・イラストは差し替えた。カーボンニュートラルによる社会変化と広がりイラスト中心に伝える。特に中小製造業に関連する内容を取り上げ紹介する。
- ・イラストにはZEBも掲載されており、西キャンパスの施設(ZEB)見学を行うので、見学と関連づけた説明ができると良い。

1-4 ～ 1-8「GXとは①、②、③、④、⑤」

- ・GXの概要とともに、国の施策・関連法案、製造業等への影響、今後の動き・課題を伝える。GXへの理解を深め、世の中の大きな変化をチャンスに変えるためのヒントを提示する。①は前回と同じ内容。②～⑤は新規作成したもの。

- ・「GXとは⑤ 分野別省エネ課題のまとめ」は、身近に必要な情報だと思う。特に家庭部門・業務部門の内容をさらに充実させたほうが良い。また家庭部門・業務部門のタイトルがダブっているので修正する。

1-9-1 ～ 1-9-3 「県等の施策を知る①～③」

- ・事務局が、神奈川県脱炭素戦略本部を訪れ（9月9日）、補助金・省エネ診断など最新の情報を収集し、資料をまとめる。
- ・カーボンニュートラル実践企業のヒアリングを行う（9月18日）。その内容を踏まえて資料をまとめる。
- ・「1-9-1 ～ 1-9-3」の掲載順については、全体の最後にすることも含め別途調整する。

1-10 施設見学(西キャンパス) 約1時間

- ・試行講座当日は、松永委員が施設紹介を担当する。該当資料の作成にあたっては松永委員とも相談しつつ準備を進める。

【研修2日目】

2-1 「エネルギー源について」、2-2 「オフィスのエネルギー管理とは」

- ・前回から変更なし。原案の内容で進める。

2-4-1 「エネルギーの基礎知識①」

- ・化石と非化石の分け方は良いと思う。
- ・核融合、アンモニアなど新技術の追加を検討する。
- ・区分・化石エネルギー源の特徴説明文 「地球環境負荷（CO₂）等が少ない」の表現が適切か確認し必要であれば修正する。

2-4-1 「エネルギーの基礎知識②」

- ・現段階では分類項目のみ掲載している。詳細を作成中。次回追加する。

2-4-1 「エネルギーの基礎知識③」

- ・情報過多に見える。冒頭の説明文を切り分ける等して、画像に焦点を当てて再編集する。

2-4-1 「エネルギー基礎知識④」

- ・基礎知識④は削除し、掲載要素は基礎知識①に統合する。

2-4-3 「エネルギー使用設備はどのようなものがあるのか」

- ・前回の分科会で委員より提供していただいた資料をベースに、76の設備リストを掲載した。各事業所に当てはまるものを確認してもらう。エネルギー消費、省エネを考えるきっかけにする。①照明機器、②熱源設備・空調設備、③給排水衛生設備、④その他機器に分類。

2-4-4 「主要設備のエネルギー使用状況の把握」

- ・前頁の分類を踏まえて、設備の計測項目、計測方法について一覧で提示する。

2-5 「設備別 省エネの視点①」

- ・照明機器について、運用改善や照明機器の選択による省エネの効果など具体的に紹介する。
- ・照明機器②の比較表について以下の意見があった。

比較表が、わかりやすくて良い。

「無電極ランプ」は→「蛍光灯」と表記したほうが受講者に伝わりやすいのでは。

同じ条件下での比較なのか。どのような条件下での数値なのかがわかると参考になる。

コストの比較があるとイメージしやすい（例えば1時間あたりのコスト蛍光灯を100とした場合に、LEDだと80など）。

2-5 「設備別 省エネの視点②」

- ・熱源設備・空調設備について、10年前と比べて省エネ性能がどれくらい変わったかを表記してもらえると良いと思う。

イ その他

- ・給排水衛生設備、その他設備など、作成中の資料は次回提示する。
- ・「省エネチェックリスト」は研修2日目に活用する。
- ・また省エネに関わる各設備について、取り組みの効果（エネルギー削減量、CO₂削減量、光熱費削減額）と、必要な投資額を一覧で比較できるような資料案を、次回分科会で提案する。そのような資料があると、
 - ① 投資が不要で、すぐに実施できるアクション（運用改善など）
 - ② 投資は必要だが、投資可能な範囲で取り組んでみたいアクション（設備投資など）
 - ③ 投資がかかりすぎて、取り組めないアクションといった選択肢が一目でわかり、各事業所の状況にあった省エネ省資源の取り組みを判断しやすい。

ウ 次回（第4回）について

当初、10月21日（火）対面開催を予定していたが、その前に以下の日程で分科会を開催することになった。

第4回分科会開催日時 10月6日（月）10：00～12：00
WEB会議（ZOOM）

（第5回分科会を10月21日（火）15：00～17：00 産業技術短期大学校西キャンパスで開催）

以上